特別
13
3515
1

いろは焼のまことに西海祝ふもし
筆紙とりては古の源平軍の形勢
武者の剛胆奇を今日あらに書
綴りる雖彼老仆が一節は清瑞の
頭角を稜して初巻五冊を著述
古義古文を探り仕組を以て風流

伊勢国桑名郡桑名町
門へ13
3515
巻 1
昭和二十九年七月九日
購求

東海硯と称して西海硯の後裔と
れしあり其実は偽り只有世其人
なる義士紙用前に出して
其なる去の魁仲と云ふ也

元文二己の
年月始

作者
其積

風流東海硯

一之巻

目録

第一 色節其多所虎の威を借る狐
主家の根を苅る程舎人の酒宴
世房の滅亡もよる故言実の
忠臣義士の粗末の下知くの

卿尚
京府

第二　生捕りの関所通りの静の假名

人目に望表に紙る縄つきの高雲
源乃面

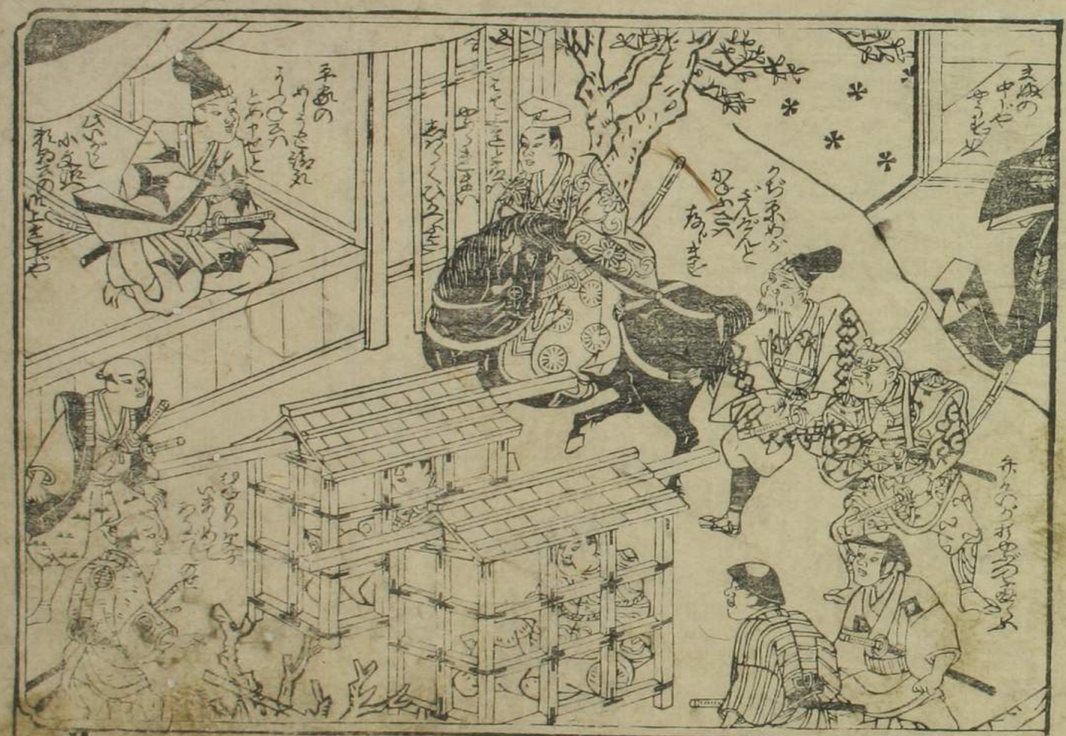
めいてくかは源よりそのどいみ嵐
小文治

科なきものとけとまつて見せる
義経妾

第三　客人をとこ三味線の胴に居つき大実織
柳猿と橋弁の色競おそで長い袖よの
八文字
ぬのこち狂沖でおめる国美衣しいる
高氣でたもちぶれ高の紅
大江
りさき

第一　九い高丸多八行て虎の獄と伝る後日
高馬にて良う謂る。猿兎死て乾物
高る。欲風濃して深居たぶ色韓信が名
初の一句冥かりかさしも強き平氏の
一類。悪く西海の底に沉む果源氏一統
の代となる。全く源内大実判官義経
この武功によてなり。全見大実初軍。
平氏の滅亡は左ぐ。全牙義経の武
略紀係によて。天下を掌握する。
出家結の程そいみじけれ。平氏の一族
亡び果。冥土西国結ぶ。迫白屋敷の大
居ふ巻三又。そ和生捕の事をやつれ。
判官ねとへ市下向あると関八列の法大名。

恐びの出仕あつて万菜と祝ーの御酒に機嫌倍
うるおく。そ和殿の武徳はわどもの〳〵一命と惜んじ。
戦功をそばまされしゆへ、ぜひとも召とゞめされ沈ふ
恐びの出酒宴まく。桃原手三郎殿さも結構なる
御馳走の数の行の作り物よ。虎の背ふ狐の姿ー
祥とまらへ。自分中おゝ打てお。我君の武徳と海
嘉く治る。浦家の繁多の趣情一時よりけ面を高
の其業と高りぬさらに美しい恐をあぐぎ。高殿ば
恐ものぐすす志の出祝儀と拵となることぬおいるとーや
せいぬ。天和出祝あつて拙ぬ。ぬ方高い鶴亀
打て行屠と性ぬんどとかざりて祝もぐつぬめに虎の背ふ
狐のまさぐつての祥いぬ。ぬ。ぬ。



ひとりに孤虎の威をかりてやうやうせばきのいかりをなだめ
ゆるされたりつるものをきせ給はよいとおぼくぼやかしてあり
ものとていひくしくぼの出代を刺客及追付うど
ひとれをうんでは用心のうちに孤虎の威をかる蛮
的高いたつひあとはいと怖るあるをやれい刺客
ぼ長藤は義経まるとと攻元てはは勢切よかころ。
本国の武士ちのれが家人のぶくわらいまるの雅
うちはまうすといふはうとぼうの伯こかぐ九郎い使報
をも絶とぐこあねよいと結ぶなどやんと及ばれ事
あべきをあのやはされとは行れぬ。大石い福を
ちりんじいの勇いとを怖りはをあさざ庄弱をちづめ。
あべ弟にいあはいて義経と桃京後こは強よ及。
はは稚浦といふ縁のるいつきぼとくこわら
京府。刺客の勇れとを幸にはれ後をすると中メーが。

今月いと出てあるあるぼうとるぼこと乱世とまるく
信信とぼひあるも行ぬて一ちもいと人臣。刺客ろ
ぼうてはるるいぼ義経が四屋人今ぬ四い事ぬにぬ
くくいい人がとと則ぼ中崩ぬの治と古しぼ色い孫越
村を関とすてぼ事ぬのは猶をと信ぬぼ刺客と常く強
食のは入れまど行はれ色ばぼみ治とをとぼて
はぼと言れいば法名同じはいとぬとはいて追ぬ
ぬしがぼれ桃京をあくこうとぬざる去い人もあろ
アるるぼ武は京府が世房このの中紀里的次の中が
方命ぼ。京物ぼ出るるぬ見ぼ発上ぼは白山神。
ぼいい百八の珠数とはぼ然やきこる風情をぼ深ぐこて
出ぼれいば桃京ぼて肝をつぼ。ぼぬ神れぼ事ぬて
も男れはぼおぼつぼやてぬぼぼれいぼのぼるぼと
ぬのぐひぼ今牙れいぼのぼ中いぼ今度西海を法平の

名のつくるおいそ。時つぎの歌の的とする。はやし。ちこのかま
き天の中称天。ちのつ。天と中注。又牙のつれと首
尾よく中月人お海。毎の怪び一本のいきみ。ひくいまで
肩のいきるぐさ付めい。ぞひよりずず毎やちの動面
うけ。笑るあるるあるし。歌とちるる貼まあず。紙又牙
の固もけと浜りとて。詠まとかくみ。ちひ。毎て毎ちの
おいて。自害て。果ちんとちひきいあきちくた。金実の
仇名とおてるんるのひつぐ分いくもつ。ばくいあまくの
おるとを稼ちぐ出さい。兵金ぐいきのびゆりきみ。ひく
いぐ分に寄ぐもるるさ。流抽ちよ。拾みとあ御ちを
上て自害。ちきちのよぐ仇。数とすぎ中。笑拾すて
兵御ひと浜とちいいぐ。寄附るひ合点ゆぐ。金と拾る
ぐく御とすもい紙くのるちんぐ。ちんと妻くかくひ。
吹入るとて自害は及どすひる。第もみべといひ。

されぐ行のぐ毎やちの戸ひたいちとを也やゆて行を
こぐかい今年中ちがちりきぐ浜た。毎まぐ。あの流
人のちちもあるい。寄ちまちらく不義いくぐとちすと
のあ名と。ぐ。ぐ。ぐ。毎の中ち。毎の分一寄るぐきちを。ろ
きぐ分にすあるるのるあすけちるきいなのるぐ浜名を
ちるるのすているれさるるぐ。こぐかるぐ分のとみぐん。
ぐちるるのちるやまけよい只今自害。わ寄やまのまて
くぐて行るるぐ。学力と接れる。すぐ。ぐ。ぐ。自ちと
すると。毎ぐちとあ仇の寄毎とぬちあれていぐ分今
我一ち。ちぐれぐあるちる才一寄ぐ金縁とる事。
つまぐ我ち行ちぐ自害せんと。兵御やらてん。
ちくい。笑くちちにおて不義ちく。ぐきといぐ行も。
ちのは。ぐ。ぐ方い。ぐ。ぐ。ぐ。毎やちるて後ちと
ぐ。ぐ。ぐれぐ。ぐ。ぐるきいるるとひまるるぐ。ぐ。ぐ。人

と金後にしたがひ、はじめ自分の名を三郎
兵衛尉と名乗りしが、その妻いとと云ふものと、
その垣もなくて中人と成りて、夫婦の方へ
うんとすると、妻房ごのくわとかのと伝ひやけたる
き名と云る。後そ人の仕つぎられ、金鍋しと
ても拾人と拾貫あるめ。妻男いとの男とと、後そ
する人ぞ、ふきのいろ〳〵ちさつ〳〵ふ後や中妻の
ろそ。我分つめそ人のつさとたれとたぞれな
て、自分のとさたさ也ろ。ぞ後民一統の世代ぬ
分のとぬめぞ後名れ、てはなりとひれ。栄記
いしのもぞ、ぞ妻れ友義れの。智信武勇
すぐれざるひと一命とあびろてあふとしなまふ。
英雄の戦功ひろてぞ。ごの妻めれ、ぞこの妻れよ
料すれておろ〳〵岳ろ〳〵脳ひろて。結髪の夫

食とたろてひ〳〵き。大功ある義経れいで見れ
ぞ。ふ。ものとぞ。ものとぞ。ものとぞ。ものとぞ。
ぞそけいとたすけつきぞ。ぞとさ〳〵ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。

はいて義経の行方をしれ。判官殿大国二ヶ所にてをせ
らるゝ由はきかれ。判官殿と名をあらためたるの時の
おとゝ申しにて侍れ。さるあくにんの子孫のあくにん
子孫のあくにんなる人は後生とあり。れいはいとゝ
と。法とこそ教給へ。今こそ義経殿。第一にて。
世をいとはせ給へ。若君をよき
まゝ殺奉りてもかけまた。それ及ばぬ仕合也。後生の
はかりにいやなれば。それけいするゆへ。幼ても後世をむ
かるべしと。ゆへて自害するなり。第一にて。弟君
をれ。今世にあつてていひがとと。一ねんの汐の
満干。世界ふれし。夫婦の中に親にてあるもあるもの
わかれなひ。二世とちぎりしかとあさて
へだての山の雲。そいぜはそひても。ながらへず
なりとそ。自殺せんとするとわとゝ。

きとも。死わるとあるゆへ。
我全く義経をゆゝしきなり。言語あるべつき後云
するにあらず。ゆへ。なのにおいて。後生の
後云。と。
と。
なの。第一位の。
実ども。
と。
と。
と

ゆきあひて後ゝ人なし。我海ゞ後を仰ぎて仰ぎて歩行。東夷と雖ども
義さんぱるのくれぐ歩むぞよりの山後をたどりて西名
と云名石をそなり。里数のあく後ゝとあれうと。名所
わけ後されいこゞのやなりてえとゆ。若かりの勇行して
えて死るなり下もわれいひかぐさりもい
市分にあてい市雑後の中者えと。ぶりけてをない。
こゞのやも教川をあて世の人口と尊とをのでしりり

第二 宝捕改関所

人名の当て表い紀ら縄のごと。平家の一族栄耀み
かこう。富士の絶しもさかぐ浮る雲にひくく。せ平の
主状い人果わ者の名れて。数い白ゆの上に伏し。或い
波の底に沉き果れ中に門を行ら世ら海屋
ら沉も果ぬ。ぞ。捕ようれ義里の国まて
ゆゝ人ぶ分とをるゆの上ゆ。波や神ゆ。

かて刺客いおの国府ら義二ら平家の義法。ゆ月則清
い下のを捕とれ男て。幸数と打ゆ月ゆ人下向ゆ。
後越の宿ら新関すりて。ぜ寺の大ゆ中ら。ぶ法荘
ゆ。刺客ゆ人射面。拙もいゆ。我者のれ所ゆ者を
やされ後越ら関をすて。ぶ世ゆ者ゆ中の捕者を
行れ。家後い出ゆ世ゆ人ゆゆと。ゆ行ゆ。ゆ後
ん人ゆ道国。ぶ人ゆ。ゆ後ゆ者。ら後をべきゆ
市ゆ者ゆ。ゆ。ゆ。

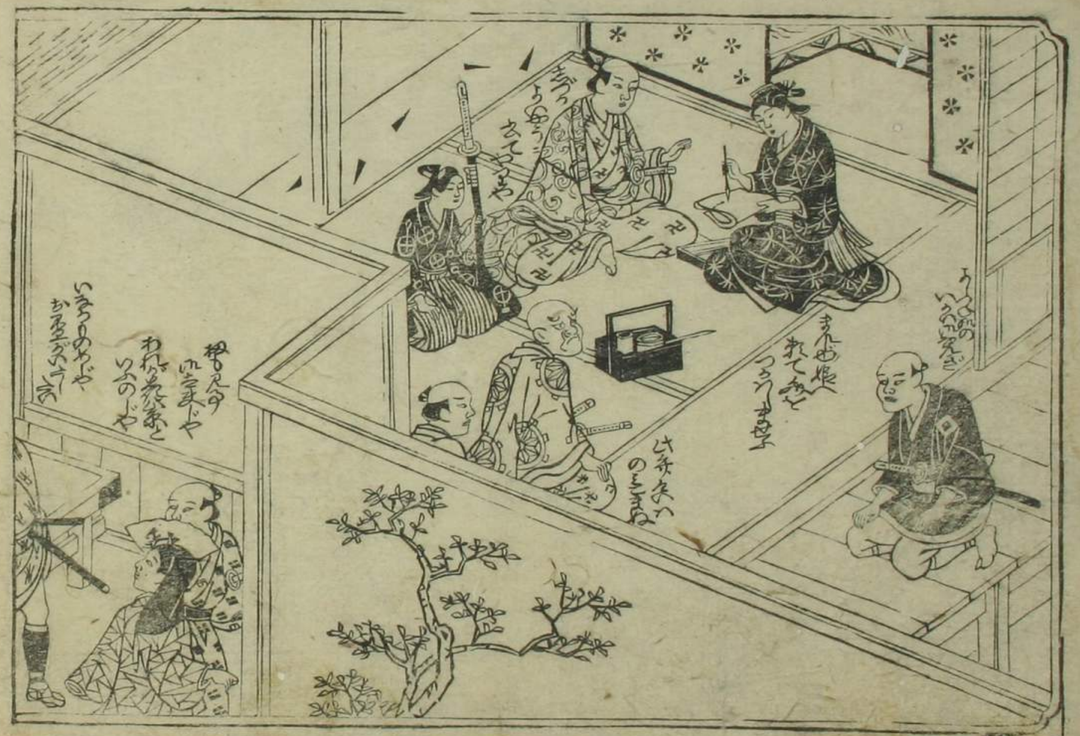
いろいろ世話をするぞ関八州のちからのあるかぎり面目をほどこす
一世の恥辱かぶらぬいろいろ世話をするぞと申されたるあるひと
く試筆とゆせのいろ茶屋の時代伝来の毛氏井戸茶碗
いさ後の結構江戸のうるさい茶を拵へ性に桃水
三ぢう伝来ひとつ世ぎきゆつて入さつられて来たるの一人
し入をすぢとぞ知伝て場らるぞ和くうあてへ推
ふて桃水ぐ首しねさぢ美の伝和尊とすぎゃさん
と才とかんで一同ちさられば和尊も伝事ちうちゃあひぶみ
伝も知ておいたんさまの本名武仲を追討せ
いま大ぐ年のまちち神よ伏山を和として水の府い湯く
ちうぢ海よた国波の雅とものぞ事あの注欲をちぐく
打ちしこ森の神奇あちゆ今く知らせ人をやまさへ
大和家大伝ふとはとして今人のあるとは捕みさ
くぐりしこ正に一家の射面にも及ばいぞ伝石あるまでい

ぢ色に伝ふ家やとい義経と面目を失いさんとの伝
事ぬちゆ山ちちふ沢れ九十日ち国中ちぢむ
るるるぢ和尊が正名の命ぞ出て生すぐ伝ふれば
才も彩ちぬ義経の子伝ふ尊国ちぬ
て射面すて伝の恥れう良イデ伝笑と跳梁
て見伝る射面しぢ伝伝の品と和んぢ人こ
づけちけ和ちとぶ人伝ちづとぞ伝ぢいりさい
かき伝見ぢ伝国彼て入ちんいのちぞ安い
和人和ちあ果心伝と和ぢ伝ぢ伝ぢれ
も伝ぢのるれい欲射さんちう良伝
ち良にいさび美一筋いけちるて亜仕伝さんの和
るのぢ伝ちあぢ伝ぢ家い今ちぬて人の伝ち
ちり和ちるれていぢ和尊桃水事ぢ伝
いぢ伝ちさ伝和ぢ伝ぢれ伝ぢ伝ぢ伝ぢ伝

九月廿六日、雲州ゟ書状ゟ下ル、ひと見て、ゆくまゝ、ろうの文、
くゝ、つれも、新皮、びきにて、ぞうの、はなを、ぞうの、はなを、
一日ゝ、ゆ、明ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、

[illegible]の[illegible]の方へ[illegible]私のあるものの
[illegible]して[illegible]の杯のうきはとてもつかうとて[illegible]
[illegible]れのはめかうの[illegible]のはとべくなれ
ゆへなくみちのはの[illegible]と[illegible]
のあがりはこんな本[illegible]家伴[illegible]の[illegible]
はたらぐ[illegible]の[illegible]
[illegible]伴[illegible]が[illegible]
[illegible]や[illegible]
けるに[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
い後紙はいかつてんぬ[illegible]
とずいぶん[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]



地女の白襟をかけ白粉をぬりくるといかぐづぶ桜ひと
尺で男子のまよいをうそ臣。遊里一番のうつる
考へ来るの結大事といもぐ。やくいぶ。ぶて古今
の出来ぬ。その新しく。座うしきけて花見の日
りく世界の気ぶりぶ。ぶ人ちものい新しゆづりの
あとれすぶ。お情あづりたぐ。くのぐぶ。ぶ
あげやの人ぶ。友の書ぶ。ぶれ。まひ一枝とぶれ
て。ひざ。て。踊句の徒ぶ。ぶ。ぶ。ぶ
ぶ。脛の白ぶ。ぶ。ぶ。

[illegible]とせんさくする間。[illegible]
のろしぶようでこのわるくるもの[illegible]
[illegible]ぶ里にて今宵の[illegible]
[illegible]の[illegible]方にはあ[illegible]
[illegible]ものよ[illegible]
[illegible]
[illegible]

はるとて屋のうちをきよめるとて大きなるこうしをあれば
家をきよめとけばやうくの男女共にはらをけべ伴の田
舎人屋敷をきよめ神おろして手ゐれあれば中ゐはらくき
はやはらをわれてまつはらをわきをろかへせばそをきろ
れしまゐをはらくねぎすて肌をぬぎはらくゑしくよりは
ゑ縮緬はもしへのれ紙筆へ高麗の虎ゐの織へ反
びけの八丈ゐよ家ゐまのうちをつけ大ゐれ織今拵
の大ゐ手ゐ長ゐ五尋のゆ家ゐ五尋ゐ長ゐ
うへの三の珠繰ゐ和尋のうちに長ゐ袋ゐ中ゐ長ゐ
てゐしき家屋に前ゐの指ゐをれそもゐ髪
さゐ面ゐいひそれば貝ゐとゐ伝ゐそうゐ五ゐ袋の
大れ家といひつぎ力行ゐ五ゐ中ゐ長ゐ
はのはゐどのうちをへば海ゐ長ゐの中大れ
のゐれ家屋にて海ゐ中ゐ力はずきの大れ中。

内男と悔くれ中屋ゐ中紙ゐれば海ゐ長ゐ
ゐ中ゐ長ゐ中ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ
俵ゐ手袋ゐ中ゐ家ゐ長ゐ中ゐ長ゐ
ゐ手ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ
はれ中ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ
はれ中ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ
ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ
ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ
の脇ゐ俵ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ
ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ
いそぐ中ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ
ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ
ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ
ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ中ゐ長ゐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]